

高津小学校では、22年度から24年度までの3年間の実践研究で指導計画を作成した。指導計画の作成では、低学年、中学年、高学年の2年間のスパンで各領域の単元を網羅できるようにしている。

今回、各学校1部配布したものは、平成23年10月までに実施された単元の実践資料と11月に行われた研究授業の指導案である。今後この実践資料次年度以降の指導計画にしていく。

○22年度から作成した指導計画

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	ボールゲーム (的あて)	☆鬼遊び	幅跳び	☆鉄棒運動	☆マット運動	☆走り高跳び
2	☆多様な動きを つくる運動遊び	とび箱を使った 運動遊び	マット運動	ゴール型ゲーム (リングボール)	☆ゴール型 (サッカー)	☆とび箱運動
3	☆ボールゲーム (投げ)	走の運動遊び	☆ゴール型ゲーム (サッカー型)	☆ネット型ゲーム (プレルボール)	ゴール型 (バスケットボール)	ゴール型 (サッカー)
4	表現遊び	ボールゲーム (投げ)	☆小型ハードル走	小型ハードル走	保健	鉄棒運動
5		ボールゲーム (蹴り)				
6		☆表現遊び				

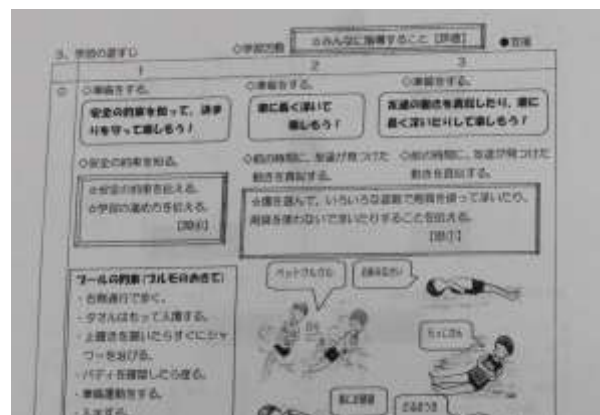
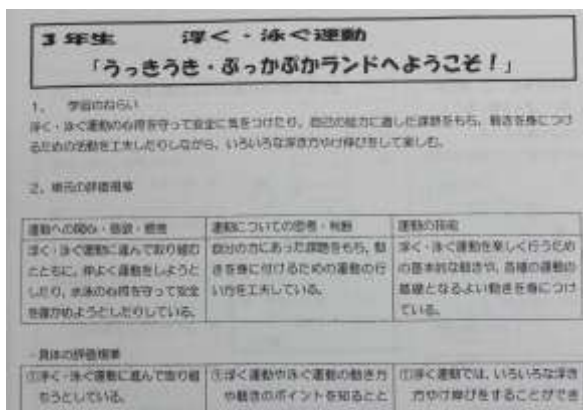
☆は研究授業として行ったものを掲載。

○23年度に作成した指導計画

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	☆ボールゲーム (的あて)	☆マットを使った 運動遊び	☆多様な動きを つくる運動	☆跳び箱運動	☆鉄棒運動	☆マット運動
2	☆ボールゲーム (投げ)	本発表提案 跳の運動遊び	☆浮く・泳ぐ 運動	本発表提案 ゴール型ゲーム (サッカー型)	体力を高める 運動	☆ゴール型 (バスケット ボール)
3	体ほぐしの運動	ボールゲーム (蹴り)	かけっこ・リレー	多様な動きをつ くる運動	ベースボール型 (ティーボール)	本発表提案 跳び箱運動
4	走の運動遊び	固定施設を使っ た運動遊び	ベースボール型ゲ ーム (ハンドベース ボール)	ゴール型ゲーム (フラッグフッ トボール)	走り幅跳び	ネット型 (ソフトバレー ボール)
5	ボールゲーム (蹴り)	ボールゲーム (投げ)		表現	短距離走・リレー	ハードル走
6	鉄棒を使った運動遊び			高跳び		水泳
7	水に慣れる遊び					

☆は研究授業として行ったものを掲載

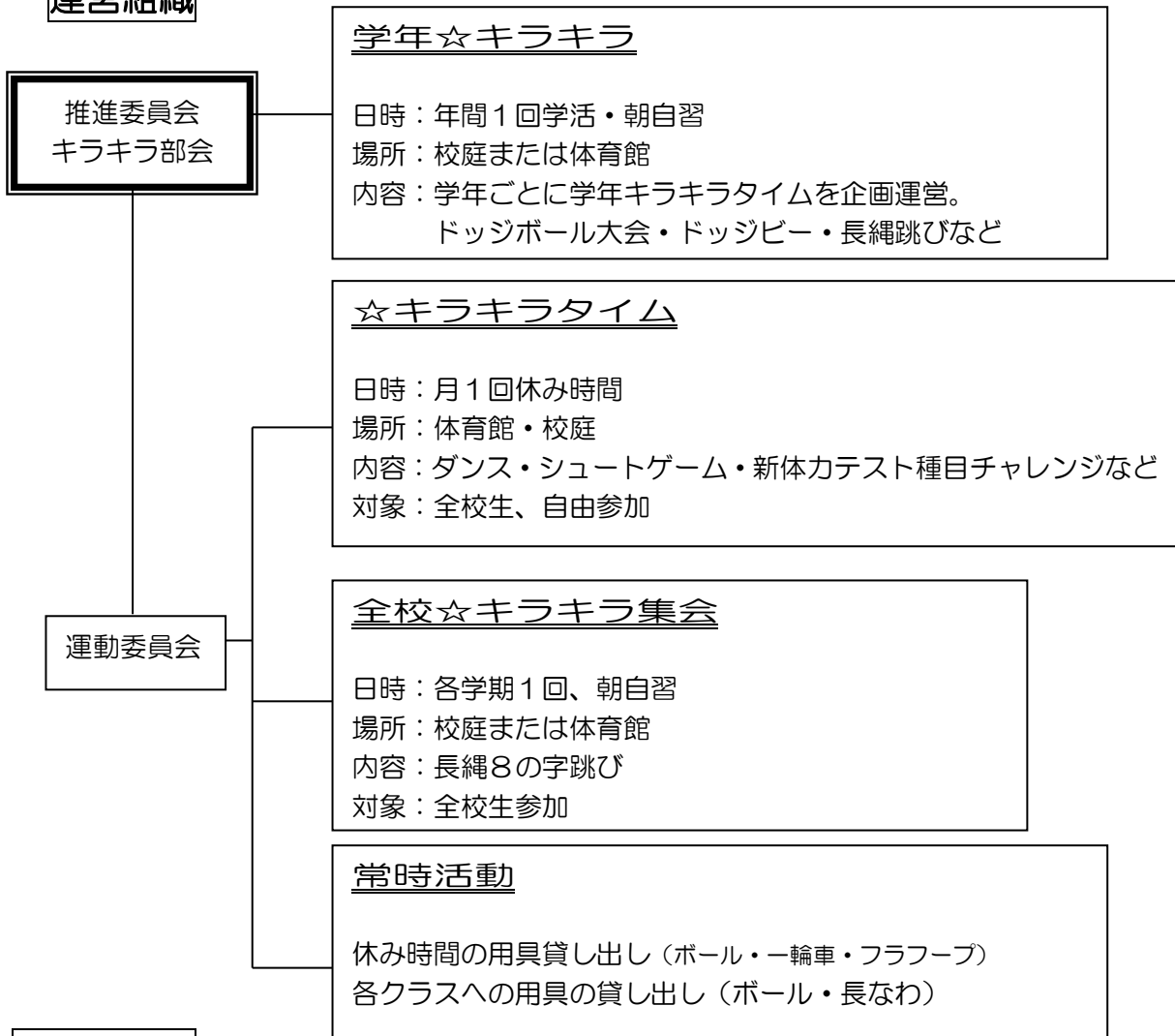
○学年にない单元については、低・中・高学年での、2学年で共有したものを学年に合わせて修正して使う。



ねらい

子どもが自ら遊びや運動・スポーツに親しむための機会の拡大と習慣化をめざし、子どもたちの健康と体力の向上を図る。

運営組織



活動の様子

全校キラキラ集会

長縄8の字跳び集会

クラスの記録更新をめざして跳びました。



キラキラタイム

みんなで踊ろう高津ソーラン!



長縄8の字跳び、記録に挑戦!

シュートゲーム!



新体カテスト種目チャレンジ!



子どもたちがのびのびと運動できる環境をめざして

《 環境部会での話し合いから 》

環境部では、子どもたちがのびのびと運動できるようにどのような環境を整備すべきか、話し合い整備を進めてきた。

話し合いの中で特に問題点としてあがったのが、体育倉庫の使用状況である。これまでも、体育用具の配置を決め、その位置をラミネートした写真や文字などで掲示をしてきたが、棚や用具入れなどの配置のためか、整理がうまくいかないことがあった。

[問題点として]

- ①倉庫中央部に用具をおいていることが多いので、必要な用具を取り出すのに苦労してしまう。
- ②大きな棚が、倉庫奥のスペースを使えなくしている。
- ③コーンバーや体操棒など棒状の用具の収納が効果的でない。
- ④台車のある用具入れがうまく収納できていない。
- ⑤高跳びのスタンドが棚につかえてしまっていて後方にデッドスペースが存在している。
- ⑥フラフープの収納位置が不適切。
- ⑦学年で開発した教材がそのままおかれている場合がある。

[整備の考え方として]

- ・簡単に取り出したり、片付けたりできる体育倉庫。
- ・学校にあるものを工夫して整備を進める。

の2点を重点とする。

[解決策として]

- ①倉庫中央部の場所にペンキで枠を描き、用具を置かないようにする制限エリアを作った。
- ②棚は、適切な場所を考えて配置した。
- ③ボール棚を利用して、コーンバーなどの収納棚にした。
- ④ボールかごやマット収納台など、移動できる用具入れを固めて置いた。
- ⑤棚の一部を外し、高跳びのスタンドを壁際に収納できるようにした。
- ⑥フラフープは、壁に掛けて整理しやすくした。
- ⑦使っている教材の使用期間がわかるように、伝言板を置く予定。

《 体育倉庫の整備を進めて 》

これらの整備を行った結果、子どもたちが用具を取り出したり、しまったりすることが以前より容易になり、総じて子どもたちの運動時間の確保に役立ってきている。研究を通し、体育倉庫の問題点を考え見直す、よい機会になったと思う。



《 今後の整備予定 》

今後の環境整備として、子どもたちが主体的に運動できる運動場の工夫を以下のようにしていく予定である。

- 運動場の壁にメートル表示する予定。短距離走や長距離走など、子どもたちが自主的に走りたくなるような場の工夫になればと考えている。
- 鉄棒や遊具などのそばに、活動例を提示する場所を作る予定。授業や休み時間などに活用できればと考えている。
- 鉄棒の逆上がり補助具などを児童の実態に合わせ順次購入し、常設するなどしていく。